

## [大地震が発生したら]

### 正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドア等を開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。  
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後火の始末をする。)
- エレベーターを使用せず階段で避難。  
(本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止し最寄階で扉が開くシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族への安否連絡及び大学へ安否連絡。

### ↓ DOWN LOAD

地震発生後の詳細は裏面へ

このマニュアルは大学HPより出力できます。PDFデータを取り込めるスマートフォンには保存することも可能です。ただし、緊急時は電源確保ができないこともあるので、必ずこのマニュアルを財布等にに入れて常時携帯してください。

<http://www.kinjo-u.ac.jp/campuslife/disaster.html>



## [大学への連絡方法]

### 大学からの情報・連絡は金城学院大学HPで確認

- <https://www.kinjo-u.ac.jp/>
- 電話での連絡は極力控えること。右記QRコードからもアクセス可



### 大学への安否連絡はK-PORTから

<https://kport.kinjo-u.ac.jp>

- 右記のQRコードからK-PORTにアクセスしてください。



### 安否確認システムの操作手順

- ① K-PORTにログイン
- ② トップ画面(新着情報)の「安否確認」をクリック
- ③ 「返信内容」の設問に回答し、「送信」をクリック  
※一つの安否確認に返信は1回のみです。

### インターネットの使用が不可能な場合

- 電話:052-798-0180(代)

## [家族への連絡方法]

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合に提供されるサービスです。

### 電話で確認

#### NTT災害用伝言ダイヤル

伝言の録音

伝言の再生

- ① **171** へ電話をかける  
ガイダンスが流れる
- ② **1** **2**
- ③ **市外局番+自宅の電話番号** **市外局番+被災地の方の電話番号**

- 利用可能な端末/NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数/1電話番号あたり1~10伝言
- 録音時間/1伝言 30秒以内
- 伝言保存期間/2日間(48時間\*自動消去)

### インターネットで確認

#### NTT災害用伝言板(web171)

- ① <https://www.web171.jp/>へアクセス
  - ② 登録または確認したい電話番号を入力  
※数字のみ「-」なしで入力
  - ③ 登録の場合は「ひらがな氏名」「安否」「伝言」を入力して「伝言を登録する」をクリック
- 1伝言・100文字以下・最大20件蓄積可

### 携帯各社の災害伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害伝言板サービス

- NTTドコモ**  
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- KDDI(au)**  
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンクモバイル**  
<http://dengon.softbank.ne.jp/>
- ワイモバイル**  
<http://dengon.ymobile.jp/>

## [緊急時パーソナルメモ]

フリガナ  
氏名  
学部・学科 学籍番号  
住所  
電話番号  
生年月日 H . . 血液型 Rh  
持病 あり ( ) なし  
常備薬 あり ( ) なし  
アレルギー あり ( ) なし

自宅近くの避難場所  
家族との待ち合わせ場所  
家族と共有しておきましょう

### 緊急時連絡先

①氏名 ②氏名  
電話番号 (間柄) 電話番号 (間柄)

※記入は油性ペンを使用してください。

## 【事前に調べておきましょう】

自宅(下宿)までのおよその距離

帰宅ルート ●金城学院大学 → → 自宅(下宿)

帰宅ルート沿線の徒歩帰宅支援ステーション  
(郵便局・ガリンスランド・コンビニエンスストア)  
☆水・トイレ・情報提供などの支援が受けられることもあります。

沿線にある一時避難所・広域避難場所

危険と思われる場所

メモ

# もしもの時にあなたを守る 大地震対応 マニュアル

## 緊急地震速報が鳴ったら!

強い揺れまでの時間は、数秒から10秒。  
走り出さない、あわてない。  
冷静に、安全な場所を見極めよう。

金城学院大学  
<http://www.kinjo-u.ac.jp>

2020.3.

あわてない。自分の身を守る。  
落ち着いて。教職員の指示に従い避難。  
安全が確保されたら、安否連絡。  
帰宅は、正確な情報を確認してから。



## 最新の正確な防災情報をチェックしよう

- 名古屋市HP  
<http://www.city.nagoya.jp/>
- 気象庁・防災気象情報  
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/flash.html>
- JR東海  
<http://jr-central.co.jp/>
- 名鉄  
<http://www.meitetsu.co.jp/>
- NHK  
<http://www.nhk.or.jp/>

危険物から離れる!  
落下物から頭を守り、安全な場所にしゃがむ!

余震に注意して行動!  
停電時は誘導灯を目印に避難!

正確な情報収集! 情報や周囲の状況を冷静に判断!  
周囲の人と協力しながら、身の安全を守る。

## 地震発生直後(～2分)

地震発生

自分の身を守る

今いる場所は安全?

YES

その場所を動かない

NO

避難場所へ避難

## 揺れがおさまったら(3～5分)

## 落ち着いたら

家族への  
安否連絡

裏面を参照

自宅に  
歩いて帰れる?

YES

自宅へ

NO

避難場所へ

大学へ安否連絡  
裏面を参照

### CHECK!

#### CHECK1 身を守る

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場所で座り込み揺れが収まるのを待つ。



#### CHECK2 火の始末

- 実験中など火気を使っているときは身の安全を確認した上で火を消す。また、薬品などから離れる。

#### CHECK3 出口確保

- ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。

### CHECK!

#### CHECK1 自分自身の心構え

- 冷静に、落ち着く。
- 建物の傾き、壁のひびなどを確認。
- 火災が起きていないか?火災の場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。また、消火が困難と判断した場合は火から離れる。
- 負傷者はいないか?負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、事務局へ連絡する。
- 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見る。

#### CHECK2 避難場所へ移動する判断基準

- ガラス、黒板、テレビなどが倒れる恐れがなく、天井からの落下物や薬品の流出が無いと確認できた場合は、動かないほうが安全である。

#### CHECK3 行動に移るときの注意点

- 火災の場合は煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- どのルートで移動すれば安全か確認し、エレベーターは使わずに階段で移動。
- 落ち着いた行動し、負傷者を優先する。

### CHECK!

#### CHECK1 行動に移るときの注意点

- 余震が落ち着き、帰宅手段等の安全が確認されるまで無理に帰宅せず、大学にとどまり大学の指示に従って行動する。
- 情報収集の際には、チェーンメールやうわさなどにまどわされず、大学や公共機関、テレビ・ラジオなどからの正確な情報を入手して行動する。



#### CHECK4 参考

通学途中などに徒歩で帰宅する目安の距離は20km以内とされています。あらかじめ、自宅と大学間の距離や帰宅経路を確認しておきましょう。また、災害時の歩行速度は、時速2.5km程度といわれています。10kmを歩いて帰る場合、4時間はかかると考えましょう。

### CHECK!

#### CHECK2 帰宅可能な場合

- 帰宅可能な場合は、必ず大学に報告してから帰宅する。
- 帰宅時は、できる限り同じ方向の2人以上で行動する。
- 帰宅後、速やかに大学へ状況を連絡する。

#### CHECK3 学内にとどまる場合

- 交通機関が停止する、帰宅が深夜になるなど、帰宅困難となった場合は、学内にとどまる。
- 建物内への移動、宿泊場所などについては教職員の指示に従う。
- 家族への安否連絡は、裏面の伝言ダイヤルサービス、伝言板サービスを利用して自分自身で行う。

### CHECK!

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。

### CHECK!

- 被害状況を正しく把握する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。

### CHECK!

- 事前に家族と相談して決めた避難所へ移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し別の避難場所へ移動する。

### CHECK!

- 家族への安否連絡、大学への安否連絡をする。
- 周囲と協力しながら身の安全を守る。

大学にいるとき

通学中